

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森

Tel: 04-7132-8800

Fax: 04-7132-8806

Email: info@konbukuroike.com

URL: <http://www.konbukuroike.com>

2019 年 7 月

第 63 号

主な予定

自然観察会

7 月 14 日 (日)

AED 講習会

7 月 21 日 (日)

9:00~10:00

T-Kids ライト・ト ラップ昆虫観察会

8 月 3 日 (土)

18:45~21:00

会長就任にあたって

会長 岡本 昇

平成最後となる第 10 回通常総会を 4 月末に開催。役員の任期満了に伴い、私を含めて 9 人（監事及び会計を含む）が選任されました。前会長の石渡様にあっては体調が思わしくない中、最後まで当 NPO の運営にご尽力頂き、紙面をお借りしまして心より感謝を申し上げます。

会長就任にあたって、浅学非才な私が一役員から三代目の会長に推挙されたものの、決心するまで様々な葛藤がありました。NPO の中には多彩な才能の持ち主が沢山おられますので、「ほかに適任者がいらっしゃるではないか」、「果たして自分でよいのだろうか」等と自問自答の繰り返し。辿り着いたのは「誰かが引き受けなければ NPO が消滅してしまうかもしれない」^{みつき}悩み抜いた末の決断でした。今、会長職の責任の重さを痛感しつつ、三月目に入りました。

振り返れば約 2 年前の 8 月上旬、突然事務局長であった古橋様が辞任を表明。その時から、NPO は迷走が始まり法人消滅の危機にさらされ続けてきました。理由についてその幾つかを列挙しますと、

- 一つは、委託範囲が拡大し、公園の整備を行うべく人手が足りない
 - 二つは、公園の管理当番を、月曜日を除いて毎日務める者がいない
 - 三つは、一号近隣公園及び管理棟の出入口に係る施錠の開閉が困難
 - 四つは、役員のなり手がいない
 - 五つは、入会者が少なく、会員の高齢化が進行
- などが考えられました。

このままでできない理由を挙げて何も改善策が見出せないようであれば、NPO の基軸である柏市からの委託業務を担うことができなくなる。これでは今まで先輩達が築いてきた、こんぶくろ池の森に対する情熱や思いが引き継がれなくなる。「法人を潰していいのか」、「潰すのは簡単だが、潰したら終わりだ」などと心の中で呟き、理由は何故だかわからないまま、私は法人の清算結了の方向に向かうことだけは回避せねば、との思いに傾注し、「ここは踏ん張らなければ」の一心で取り組んで参りました。

先行き不透明感が高まる中、これらの課題を解消するため前通信でも石渡様が触れられておりますが、会員全員が公平に当番に当たる新管理当番制の提言や、委託範囲の縮小、さらに施錠の開閉も行わないなどを協議。

一方、柏市に対しては並行して改正案を提示し、細部にわたって協議を続けながら、委託契約の締結にこぎ付けて参りました。この間、理事

会は重苦しい空気が漂い、水面下でアヒルの水かきの如く、もがき、苦しみ、模索を続けた時でもありました。

上記の経緯を経て、30 年度がスタート。同年の後半には新人役員を見出すための手法について知恵を絞り出し、アンケートを作成。会員としての期間が僅かであっても、あるいはご高齢であっても熱意さえあれば良いではないかと役員候補を募ったところ、幸いなことに大幅な役員交代が実現できました。さらに、事業担当制を新設する等、次の世代に何とかバトンタッチしていく布陣を整えることができた、のではないのでしょうか。

ここで、委託契約の主な概要について 2 年前と現行を比較してみよう。

	平成 29 年度	令和元年度
委託名称	公園運営支援業務委託	公園維持管理業務委託
管理範囲	14.6ha	11.1ha
業務日	月曜日及び年末年始を除いて毎日	土、日、祝日（年末年始を除く）
当番者	—————	原則として当番者二人
公園内調査	生物調査、水位測定、取り纏め等	動植物等の調査・研究（1 号近隣公園を含む）及び草地等の維持管理
公園内整備	観察路等の園内の整備、補修（1 号近隣公園トイレ清掃除く）	清掃、除草及び軽易な低木剪定作業等の維持管理
作業日報	—————	活動記録の作成
情報発信	来園者に公園の紹介・説明、利用上のマナー等啓蒙活動及び市と情報の共有、提供等（随時）	—————
案内	案内、電話など対応	平日団体来園者対応（事前申し込み）
アドバイザー会議	会議運営（年 1 回以上）、意見を活動に反映	—————
イベント企画・運営	自然観察会・工作教室等年 6 回程度実施	—————
浄化槽	水質浄化槽等管理	—————

令和元年度委託契約の特徴としては、従来の「公園運営支援業務」から「公園維持管理業務」に移行することで、いわゆる、公園管理を行う指定管理者的な役割を当 NPO 法人が請け負うことになったことです。

内容的には上記表の通りですが、管理の範囲や当番日の縮小、アドバイザー会議の運営返上、及びイベント企画・運営の廃止等業務のスリム化を図ったことでした。なお、情報発信及びイベント等は明記されておりませんが、これらの業務は、NPO 自身が本来の目的のため、主体的に取り組むべき事柄（勿論柏市としても）の一つではないかと考えております。

次に今後の NPO 在り方については、法人として明確な運営指針なるものを定めているわけではありませんが、当たり前の事ながら私は次のように考えております。

現時点では、「営利を目的としない特定非営利活動法人である」との原則を念頭に法人全体のバランスを維持しながら、NPO 定款第 3 条

(目的) 及び第5条(事業)の規定に基づき、様々な事業を具体的に推進していくことが基本であると存じます。このためには、①現行の組織体制を更に強化していくこと、②調査、里山の枠を超えた会員相互の連携を図ること、③新規正会員の加入促進及び賛助会員の加入を図ること、④住民目線で公園管理に取り組むこと、⑤柏市はもとより近隣の大学や他法人等との連携をより一層図っていくことなどを目指していけば、当面はよろしいのではないのでしょうか。

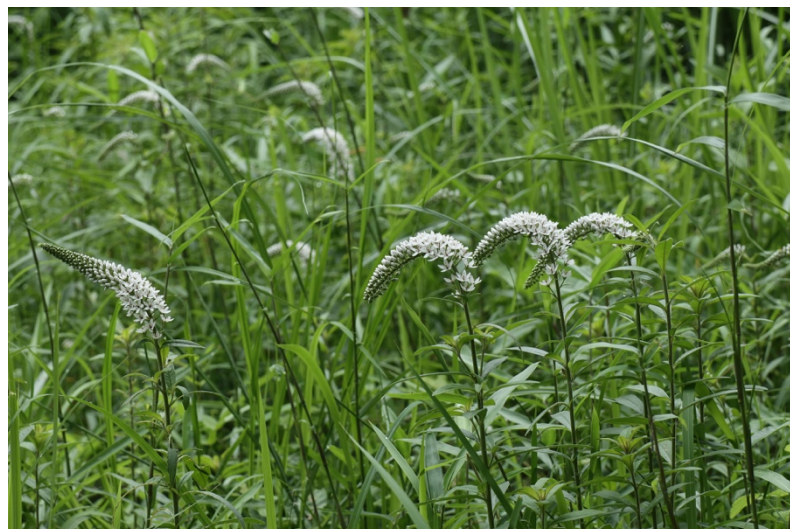
本年は私達 NPO が法人化して 10 年目。また、5 月から令和元年の新時代がスタートし、ほぼ同時期役員が大幅に刷新。このように色々なことが重なる節目の年に、今までの経験を参考にしながらも、拘ることなく取り入れるべきことは取り入れるなど、新しい試みにチャレンジしていく絶好の機会を神様が与えて下さっているのかもしれない。

終わりに、ダーウィンは進化論で「変化への適応にとどまっていれば生き残れない」と唱えておりますが、我々「NPO 法人」は進化論だけでは生き残れないのではないかと存じます。昨今のスピーディな、しかも変化の激しい時代を乗り切るには、「変化を創り出すものが生き残れる」ものと私は確信しております。

公園を取り巻く環境は、これまでの 10 年とこれからの 10 年とでは、恐らく激変していくことと存じます。ちなみに、隣接の西柏自動車教習所の整理が進み、またこの夏場にはホテル二つも解体される見通しになりました。梅雨の時期ではありますが、このところ日本各地で猛烈な雨が多発するなど、地球環境問題の影響か、温暖化の進行を NPO が直接的に止めることはできませんが、周辺環境の変化には、柔軟に対応していくことは可能ではないかと存じます。

一方、当 NPO の運営に当たって私は「一張一弛」を心掛け、同時に「令和」の「和」にちなんで「和をもって貴しとす」の言葉を胸に長期的な視点で 30 年後、50 年後、100 年後と、地域資源、自然環境資源である「こんぶくろ池自然博物公園」づくりに、会員の皆様とともに微力ながらも力を尽くして参りたいと存じます。それには会員の皆様のご理解、ご協力が何よりも大切ですので、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

加えて、できるだけ多くの市民の皆様に親しまれる法人活動を目指し、当 NPO の存在価値を高めつつ、法人の存続も維持できるよう努めて参りたいと存じます。未来の子供たちのためにも。



ノジトラノオ
(写真：藤原 俊和)

6月の活動報告

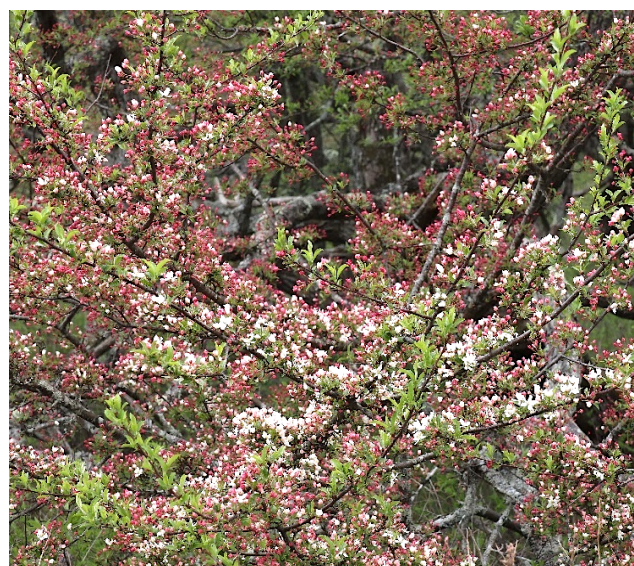
6月4日（火）

初夏の日光・戦場ヶ原に咲く「ズミ」と花巡り

藤原 俊和



新緑の若葉に赤い蕾と白い花卉：
こんぶくろ池に比べ、葉の大きさが小さく、枚数が多い



白い花卉を被い尽くす、ビッシリとついた赤い蕾



ミヤマウグイスカグラ（深山鶯神楽）
数多く見られます



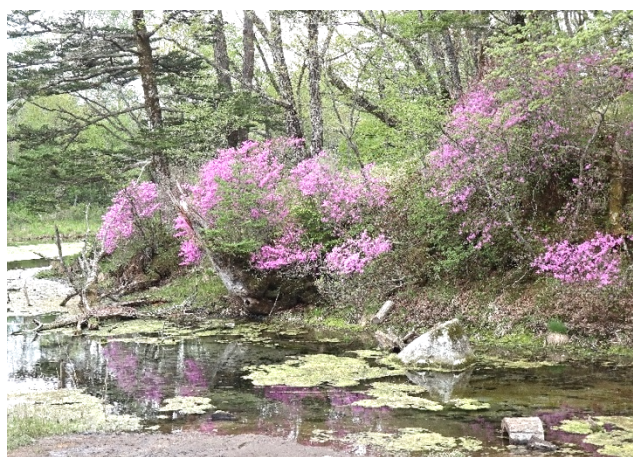
ミヤマキンポウゲ（深山金鳳花）
艶があります



クロミノウグイスカグラ（黒実の
鶯神楽）、ハスカップへ改良



ヒゲネワチガイソウ（髭根輪違草）
赤い葯が可愛い



泉門池のトウゴクミツバツツジ（東国三つ葉躑躅）



ズミ、枝は水平方向に長く伸びて、日差しをたっぷりと受けています



千手が浜のクリンソウ（九輪草）



戦場ヶ原の遊歩道、背景の樹木はズミ
（こんぶくろ池のズミと樹形が異なりお椀型）

特記事項：ズミの生育状況の観察を兼ねて、初夏の戦場ヶ原へ

- ・ 水際のみではなく、川から離れた舗装道路沿いにも生育
- ・ 樹形は、縦に伸びるのではなく、水平方向へ広がり、お椀型に近い木々が大半。日差しが非常に重要である事再認識。
- ・ 蕾及び葉の数の多さは、驚く程で枝にビッシリと付いていました。
- ・ ワタスゲの白い穂が見えない。戦場ヶ原の乾燥化は激しく、上の写真付近の土壌表面水分率は、がん研究センター横と同じ値で深刻です。
- ・ 散策中、親切なバードウォッチャーに遭遇し、スコープを通してキビタキ・ノビタキ・ホオアカ・アオジと代表する鳥も見れました。
- ・ これから7月中から末にかけて、ホザキシモツケの大群落を戦場ヶ原～小田代ヶ原で見られます。一見の価値あります。

6月22日(土) 自然の豊かさ調べ

上田 真佐江

作業内容

- ・ツルグレン装置の稼働開始 2台
- ・土集め 於：クロツバラ西の林縁及び林内

集めた土から土壌動物を採集

土から採集した土壌動物、及びツルグレン装置稼働により土から出てきた土壌動物の簡易同定

自然度判定用土壌動物標本（青木1995）を用いて、土壌動物による自然度を算出

活動参加者 徳永さと子 橋本谷弘司 藤原俊和 上田真佐江

参加人数 3名（当初6月15日に実施予定であったが雨で中止。日程変更により15日の参加予定者3名が参加できなくなった。）

調査結果

2019年6月調査自然度69

※写真は徳永さん撮影

		2017年	2018年	2019年		
		5月27日	10月9日	6月2日	9月17日	6月22日
A 5 点	ザトウムシ	5				
	オオムカデ	5	5	5	5	5
	陸貝	5	5	5	5	5
	ヤスデ	5	5	5	5	5
	ジムカデ		5	5	5	5
	アリヅカムシ					5
	コムカデ	5	5	5	5	5
	ヨコエビ	5	5	5	5	5
	イシノミ					
	ヒメフナムシ	5	5	5	5	
B 3 点	カニムシ					
	ミミズ	3	3	3	3	3
	ナガコムシ			3		
	アザミウマ		3	3		
	イシムカデ	3	3	3	3	3
	シロアリ					
	ハサミムシ		3		3	
	ガ（幼虫）	3	3	3	3	3
	ワラジムシ	3	3	3	3	3
	ゴミムシ	3				3
	ゾウムシ	3		3	3	3
	甲虫（幼虫）	3	3	3	3	3
	カメムシ	3	3	3	3	3
	甲虫	3	3	3	3	3
C 1 点	トビムシ	1	1	1	1	1
	ダニ	1	1	1	1	1
	クモ	1	1	1	1	1
	ダンゴムシ	1	1	1	1	1
	ハエ・アブ（幼虫）	1	1	1		1
	ヒメミミズ	1	1	1	1	1
	アリ	1	1	1	1	1
	ハネカクシ	1	1	1	1	
	合計	70	70	73	69	69

アリヅカムシ

リクガイ

ヨコエビ

ゾウムシ



ワラジムシ



トビムシ



ダニ



徳永 さと子

顕微鏡でやっと判別できるような小さな生き物達が、私たちに様々な情報を与えてくれると言うのは、本当に驚きです！自然界の営みに、おおいに想像力がかき立てられました。

橋本谷 弘司

土の中から小さな虫を見つけてピンセットで掴まえる。
他の人から見ると奇妙に映るかもしれませんが、老化度を判断するバロメーターになるのかなと思っています。

7 月理事会

2019 年 7 月 6 日（土）10:00～12:20

出席理事：岡本、萩原、上田、北田、中川、藤原

会計・書記：山上

審議検討事項

（1）スタンプラリーの実施について

- ・ 11 月 24 日（日）に「4 つの池めぐり」という形で開催。
- ・ 工作教室などいくつかのメニューと合わせて実施。

（2）花暦＆観察会チラシ掲載内容について

こんぶくろ池自然博物公園には、多様な植物が生育していることを広く一般にも周知して理解を深めていただくために、原稿作成段階で精査した内容で、当面、会員メーリングリスト送付分と差をつけずに HP などにも掲載することを継続。

（3）会員募集のチラシについて

- ・ 新入会員を増やすことは、NPO の存続に関わる課題であるので、まず会員募集チラシをリニューアルする。
- ・ HP を差し替え、柏インフォメーションセンターやパレット柏などにも置いてもらう。
- ・ 情報サイト「カシワノボ」の掲載内容を更新する。

（4）柏市への申入れ事項について

- ① 伐採についての申入れ前に、市に依頼する伐採候補木を再確認（里山・調査）。
- ② 木道等整備についての申入れ前に、NPO 内でできる作業と、市に依頼する作業を調査して仕分けを行う。
- ③ 会員募集のための「公園作り・サポーター講座」参加者募集記事の「広報かしわ」への掲載依頼。
- ④ その他（ハンディキャップ者対応、防犯カメラの設置、事務所エアコン改善等）。

（5）外部団体と共同実施のイベント・調査等のプラン作成時よりの進め方について

公園使用許可申請等について、当面、市の方針に従って運用。

（6）チェーンソー講習済者の補講について

市内での開催や助成制度について、みどりの基金に確認。

(7) 当番による二つの池の水位測定について

近日中に開始される予定の、アジア航測による水圧式水位計を用いた自動測定で代替できる可能性があるので、そのデータを入手した上で再検討。

(8) ららぽーと柏の葉イベント (8/24-25) 参加について

今回は参加を見送るが、業者との顔つなぎはしておく。

その他

- ・ 公園案内等の折には、「ハンドブック」を必ず勧めていただきたい。
- ・ 千葉昆虫談話会および柏歴史クラブよりの資料提供があり、管理事務所本棚に置いてあるので、是非ご覧いただきたい（持出厳禁）。
- ・ NPO 設立 10 周年にあたり
大学の先生等にもお願いして、シンポジウムの開催も考えられるのではないか。
併せて、NPO の 10 年の歩みを総合的にまとめることも検討する。
- ・ ズミ PJ の当面の保全計画及び乾燥化対応についてのペーパー配布。

編集後記

岡本会長も書かれていますが、今年度から NPO の組織も柏市との契約も 2 年前とは大きく変わりました。一時はイベントの開催も難しい状況でしたが、NPO 主体の園内ガイドや自然観察会、昆虫観察会も好評です。8 月には千葉県昆虫談話会の協力も得て、T-Kids の子供達と夜の森でのナイトトラップもあります。秋にはまたスタンプラリーも計画中です。

柏の葉の地域の住民や企業、大学、柏市などと協力して他にはない公園を作っていけたらと思います。（萩原秀夫）